

白血病をわずらい闘病を続けるターラ・エンリレさんと娘のカーラちゃん。一時退院した時に自宅で撮影した=愛知県一宮市で(エンリレさん提供)



# 白血病ママ 諦めない

## 混血…骨髄移植に壁

愛知県一宮市で英会話講師をしていたフィリピン人女性ターラ・エンリレさん(三三)が一宮市朝日Ⅱが、白血病を患い、一宮市民病院で闘病を続けている。シングルマザーで、一人娘のカーラちゃん(三三)のために少しでも長く生きたいと願うが、根本的な治療となる骨髄移植を受けるには、適合する骨髄を探す難しさと、資金難が立ちあがっている。知人たちが支援団体をつくり、募金活動を始めた。

(安福晋一郎)

十二年前に来日した再発の際、すぐ入院するよう勧める医師にエンリレさんは、昨年一月、足にできた斑点に異変を感じて検査したところ、急性骨髄性白血病と診断された。病状が回復して六カ月後に退院したが、今年三月に再発。現在はカーラちゃんを知らない預け、病室の無菌室で過ごし、一時帰宅を繰り返している。

「卒園式までは生きられないかもしれない」と思ったからだ。現在は白血病の抗がん剤治療で命をつないでいるが、根本的に治すには骨髄移植が必要。しかしエンリレさ

## 一宮の団体 募金活動

んの場合、父親はイラがかかるといふ。エンリレさんが通うフィリピン人で、スペ一宮キリスト教会の知人らがこうした事情を聞き、七月に「ターラさんを支援する会」を設立。ホームページで賛同者を呼び掛け、移植にかかる費用の募金活動も始めた。副代表の岩原吉治さん(六六)は「見て見ぬふりはできない」と話す。

主治医の北村邦朗医師(五五)は「遺伝的に均一な日本では、適合する骨髄の持ち主はまず見つからないだろう」と指摘する。海外でドナー(骨髄提供者)を探すしか道はなさそうだが、北村医師は「母国のフィリピンで探せば可能性は高まるが、フィリピンには骨髄バンクの制度がない」と頭を悩ます。

仮にドナーが見つかったとしても、海外で骨髄を採取することに、局の一宮キリスト教会なり、移植には最低で電0586(73)14も五百万円程度の費用44へ。

骨髄移植では、血液などに含まれる免疫組織「HLA(ヒト白血球抗原)」の型が適合しなければ、手術しても拒絶反応を起してしまう。日本人だけでも型は数万通り、世界中では百億通りあるといわれる。同じ型の人を見つけやすいよう、情報を蓄積して患者を適合者となげけるのが「骨髄バンク」だ。

日本で骨髄バンクを運営する骨髄移植推進財団(東京)によると、七月末現在、骨髄提供者(ドナー)として国内で四十三万四千人が登録。移植を待つ患者の登録者は二千八百九十七人いる。

## 免疫の型、適合難しく

国内の患者がドナーを見つけて移植を受けたケースは、二〇一二年で六割に上る。ところが、海外から日本の骨髄バンクに登録した患者の場合、移植を受けられたのは1・8%と激減する。

骨髄の検査などをする公益財団法人「HLA研究所」(京都市)の佐治博夫代表(七五)によると、HLAの型は両親からの遺伝で形作られ、地域や人種によって大きく差が出る。日本人同士は遺伝的に均質で型が合いやすいが、人種が異なると適合しにくく、混血になると極端に難しくなる。

佐治代表は「人種的なルーツが複雑にまざる人の場合、世界的にも希少な型となり、適合者を見つけるのは非常に困難になる」と指摘する。